

新春法話 「二人一つしかない命」

新年明けましておめでとーございます。

いよいよ平成十九年 亥の年が始まりました。昨年を振り返りますと、恒例の漢字二文字でその年を表す言葉として「命」があげられました。絶え間なく続く凶悪犯罪や、飲酒による交通事故、学校教育での虐めなどなど数え切れませんでした。特に子供の命を取り巻く環境は、一見安全平和であっても、常識のない大人によって危険にさらされています。か弱い命を大切に見守っていく社会の実現が望まれて久しいですが、まずは、ご家庭から、ご近所から命の尊さを真剣に学ぶことが大切だと思います。「二人一つしかない命、二度と手に入れることができない、かけがえのない命。命持つものはすべて平等である。」ということをお小さい命にしっかりと教えていただきたいですし、私たち大人も改めて実感してほしいものであります。

命を用いた言葉には、「宿命」「運命」「使命」などがあります。

「宿命」とは 命が宿ること、これは私たちの命の誕生は自分の意志に基づきません。両親の2つの命が溶け合い、そこになんらか知らぬ尊い力 これを縁といいますが、働いて小さな命が誕生します。しかし生まれる時代、場所、環境は選べません。そうした命の誕生における環境を宿命と呼びます。この宿命は変えることができません。宿命にこだわらず、ありのままの命の現状を素直に認めることで、自分の生き方が示されると思っています。

次に「運命」ですが、これは命を運ぶという事。これには自分の意志が関わってきません。全てとは言いませんが、大体は自分の日頃の生き方によってさだまってしまうと思えます。楽は苦の種、苦は楽の種という言葉がありますが、楽だけを求めていけば最終的には大きな苦しみに出会いますし、苦勞を惜しまず生きることは、一つ一つの苦勞が花となり実となって、人生を豊かにしてくれます。そして大事なことは日頃の生活において、悪因をつくらず、善因をつむ事をここがけて頂きたいと思えます。悪因とは知らず知らずのうちにつくられます。それは、健康のことであったり、人間関係であったりします。暴飲暴食 深酒 ヘビースモーカーは、体を損ねる因となりますし、何気ない振る舞いや言葉使いでもって人との付き合いに悪影響を及ぼすことが多々あります。善因は、自信過剰にならず健康に留意し、足りることを知って欲を慎み、人に優しく接することで自ずと積まれていくと仏様は説きます。これを善因善果 悪因悪果 つまり善いことをすれば、善き結果をもたらし、悪いことすれば悪い結果を招くといえます。こうしたことを心がけて生活すれば、運命は良き方へと導いてくれることでしょう。

最後に「使命」、命を使うということ。人生において成し遂げなくてはならないと感じたとき、その人の命は大きく輝くことと思えます。人は様々な縁によって、いろんな人と出会い、機会に恵まれます。そのなかで、自分の命を惜しみなく使う、ここぞと思うときが人それぞれにあることと思えます。そこにその人の生き様があらわれ、自分の生きがいを感じる事ができるのではないのでしょうか。

人にはそれぞれの宿命があります。宿命を出発として生きていく中で、私たちは、多くの人々と出会い、種々の環境において様々な体験をすることで、縁がきづかれます。その縁によって運命が決まり、やがて使命を知ります。最後に目を閉じるとき、自分の一生に真の幸せを感じるか否かは、日々の私たちの生活にかかっています。

新年を迎え、心新たに、悪因を作らず、善因を積むことを心がけていただければ、皆様の種々の願いはきつとかなえられ、ご本尊様の大きいなるご利益を授かることと思えます。

平成十九年 元旦

延命山正光寺 住職 高野隆 晃